

学校の教育目標「自らとりくみ 輝く佐見の子」



校報

さ み

キラリ

佐見小学校ホームページ <http://samisyo.town.shirakawa.gifu.jp>

白川町立佐見小学校

校長 佐伯 好洋

平成29年度 校報

2学期末号 (No.10)

年の瀬を迎えて

校長 佐伯 好洋

26日は、2学期の終業式。まだ暑いさなかの8月に2学期のスタートを迎え、運動会、佐見っ子まつり、小学校音楽会、佐見歌舞伎公演などの大きな行事や活動を通して、子どもたちの輝く姿をたくさん見ていただくことができました。この陰には、PTA役員の皆様をはじめ、保護者、地域の皆様がたくさんのご支援がありました。無事に2学期の教育活動を進めることができましたことに対し、あらためて深く感謝申し上げます。

さて12月、年の瀬を迎えると自分が子どもの頃の冬休みを思い出します。自営業を営んでいたわが家は、両親ともに大晦日の午前中まで仕事で家にいません。午後から大掃除を始めるので、辺りが暗くなっても終わるわけはありません。2～3日前から夜に窓ふきをすることもありました。そんな生活ですから、子どもの私と兄にとっては、自分の部屋の大掃除は早々に済ませ、その他のところの掃除を少しずつ手伝い、大晦日も暗くなるまで掃除や簡単な松飾りづくりを手伝いました。年取りの夕食が始まるのは8時過ぎでしたが、やることをやりきって家族みんなで食べる夕食は格別でした。大変な年末ではありましたが、子どもなりに精一杯手伝ったことに必ず父や母が感謝の言葉をかけてくれることがうれしくて頑張っていたように思います。今になって思えば、親の言葉が自己有用感を高めていてくれたのだと理解できます。

明日から冬休み。時代も大きく移り変わり、子どもたちの冬休みの過ごし方も大きく変わってきました。しかし大掃除で一年の汚れを落とし気持ちよく新年を迎えることや、お正月を家族や親戚の方々とともに過ごす楽しさは、どの時代であっても味わってほしいものだと思います。小学生ですからできることは限られているかもしれませんが、何か家族の一員としての役割をもち、やりきる体験を支援していただきたいと思います。できればそのときに、子どもたちへの助言や感謝の言葉がけをお願いします。そんな中で親子のふれあいをもつだけでなく、生活の知恵を学んだり、日本の伝統的な習わしについても知ったりする機会になることを期待しています。子どもたちとともによい冬休みを過ごし、そしてよい年をお迎えください。

今年も幸男さんから子どもたちに素敵な手作りの門松のプレゼントをいただきました。お正月の風物詩の一つであり、また手作りの温かさを感じてほしいと思います。早速児童玄関に飾らせていただきました。ありがとうございました。

